

12月8日 不戦の日

軍縮総会へ行動開始



全国で盛り上がった不戦の日

「八」年の第「回」国連軍縮特別総会に向けて日本からも具体的な行動が開始された。かつて日本軍国主義が、太平洋戦争への第一歩を記した日である二月八日、街頭する軍国主義と高まる核戦争の脅威に反対する行動が全国各地で行なわれた。既に開始されている四項目署名を軸に、欧州と連帯した国民的な運動が必要とされている。

具体的には「核戦争への道をゆるさず、核兵器廃絶、全面軍縮を求め」る「二・八」横濱平和シンポジウムと集會が開催された。シンポジウムには、六「団体」及び代表約五百〇〇名が参加。「ヨーロッパ」では、核戦争反対、核軍縮を求める、数百万の市民、労働者が決起し、大きな政治的力となり、このアピールに象徴するように、

東京では「日本はこれだけの市民連合」の主権による反戦と反核とを訴える平和集會が開催された。会場には、五〇〇名以上の参加者とともに、フィリピン、アメリカ、ペルーからの代表も参加し、「太平洋民衆の平和のネットワーク」を作っていくことが確認されていた。

この他にも「戦争への道を許さない女たちの集會」(六日)、わたつみ会による「不戦の集い」などがもたれた。

大阪では、護憲連合、大阪軍縮協等の主催で「二・八」平和のうねりを、不戦の誓い大阪集會が開かれた。集會では、まず戦争協力者の「生きがい」にすりかえた国防婦人会(役割分担論)の危険性「障害者」の生きる権利を奪うなど、戦争の犯罪性が労働者婦人「障害者」の立場から訴えられた。後半部では、教育反動阻止府民会議VS文部大臣などの形での模擬討論(左写真)によって、愛国心教育、靖国参拝などを推進する側の「論理」が浮き彫りにされた。

大東洋 機動隊導入糾弾 教授会会見で反撃開始

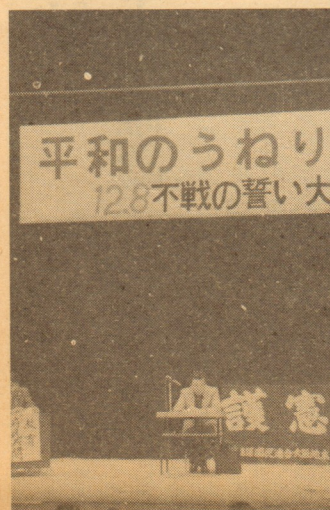
十二月三日未明、東洋大学に機動隊が導入された。社青同協会派の一揆的な窓口交渉、徹夜の座込みに対して、その場にいた百名余りの学生を排除するための口実論議され、刑事弾圧の策動すら目論まれている。

東洋大当局は、中教審「後期計画」にそって八一年度在学部の学生の声に対して、力で押しつぶそうとする東洋大当局の非民主性を大学の内外にまきまきと暴露した。しかも、学友に対する処分が論議され、刑事弾圧の策動すら目論まれている。

ロックアウトに対し抗議のデモ
=11月12日、東洋大

学費値上げを決定し、六年後にひかえる百周年に向けて、全学移動をも含む、全面的な再編に着手しようとしている。しかしながら、当局にとって至上命令となつてこの課題を達成するには、東洋大の学生運動は非常に大きな障害となつていく。それゆえに、学生の自主・自治活動をより強化し、文化創造の発展を促す白山祭を要質させ学生間に分裂と混乱、不信を持たし東洋大の学生運動を圧殺せんとしているのだから。

東洋大二万学友は、機動隊導入刑事弾圧、処分策動、度重なるロックアウト攻撃にも屈せず、十二月八日の社会学部教授会会見実現を始め、第十七回白山祭実現の闘



12.8大阪集會=護憲、軍縮協等が主催

阪学大では、大阪府民会議の遠藤孝子氏を招いた講演会がもたれた。講演では、①日常生活、慣習に残る女性差別、②女子学生の抱

いから八一年学費値上げ阻止、百周年事業の闘いと結合し、東洋大の反独占民主改革をめざした闘いとして、学長、理事会団交実現を勝ちとるべく持続的な粘り強い闘いを展開しているのだから。

「見つめ直そう、人権の尊重、差別の重み」をテーマに、近大では九月一二日まで企画が取り組まれた。特に一日の「差別事件を考へる全学シンポジウム」では、一連の差別事件に対する当局の自己批判の下に、差別事件、在日朝鮮人問題に関する二つの責任機関、更には新講座(在日朝鮮人問題論)設置の確約を勝ち取った。これは、学内での相次ぐ差別

理「学部では、部落解放研究会の呼びかけにより婦人問題研究会が開設され、毎回百名前後の学生、学友会理工学執行委員会の共催により「人権週間連帯、学内差別発言を糾弾するシンポジウム」が開催された。「特措法」に対する差別と偏見に満ちた授業、一本を金で買わないならノーパン喫茶で働けばよい」という女性差別発言等が繰り返される中、シンポジウムは、こうした差別実態をバクロし、当局の責任性を明らかにしていった。シンポジウムは、解放教育樹立に向けた新たな段階を切り開いたと言える。

阪学大では、大阪府民会議の遠藤孝子氏を招いた講演会がもたれた。講演では、①日常生活、慣習に残る女性差別、②女子学生の抱

近畿大

東理大

理「学部では、部落解放研究会の呼びかけにより婦人問題研究会が開設され、毎回百名前後の学生、学友会理工学執行委員会の共催により「人権週間連帯、学内差別発言を糾弾するシンポジウム」が開催された。「特措法」に対する差別と偏見に満ちた授業、一本を金で買わないならノーパン喫茶で働けばよい」という女性差別発言等が繰り返される中、シンポジウムは、こうした差別実態をバクロし、当局の責任性を明らかにしていった。シンポジウムは、解放教育樹立に向けた新たな段階を切り開いたと言える。

帝女大

帝女大

帝女大では、解放研主催で「勝利ガンバレ」(母を生きる)などの映画会が連日行われた。同大学では「分かれて住めば差別はなくなる」との教員発言を契機に、大学当局もそれまでの同和推進の姿勢を反省し、啓発活動に着手し始めた。しかしそれはまだ形式的なもので、人間の中には尊敬すべき人間と蔑視すべき人間がいる」などの教員発言は後を絶たない。これを克服すべく、大学に中味ある啓発活動を行わせる運動が必要である。

大阪市大では、六月から連続七回の婦人問題委員会主催の講演会が開かれ、毎回百名前後の学生、教職員参加している。また講演会に参加する学生の自主的組織として「愛護生の会」が結成され、懇話会、通信発行等を通じて、問題意識の深化、学生間の連帯がはかられている。

更に来年度後期には「婦人問題論」の開講も決定している。論議は、婦人問題への科学的理解を保障し、差別と闘う婦人労働者、女性解放に貢献する人材養成のための、大学づくりに向けた第一歩といえる。

現在女子学生をめぐる状況は厳しいものがある。就職差別は「社会的慣習」のごとくまかり通り、四年制大卒女子では就職率六五・七%という厳しさである。一方大学教育も、この実態に全く目をつ

学案内

「社会主義は、この発見によつて(唯物史観と剰余価値)一つ科学となつた」そこで、これからは科学としてとりあつかわれなければならない。すなわち研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

さて第三章は唯物史観のスケッチから始まっている。そしてこの唯物史観こそ、現実を対立する二つの過程(現実を肯定し

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

空想から科学へ

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

学案内

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

学案内

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

学案内

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

学案内

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

学案内

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

再生産する側面と、否定し変革していく側面)の統一としてとらえる事を可能としたのである。つまり「条理が通らなくなった」研究しなくてはならない、と第二章を結んでいる。つまり従来の古い社会主義は、現存の資本主義の生産様式とその結果を批判したけれども、その歴史的時期における必然性、没落の必然性を示す事はできなかった。彼らにあつては新しい理想と新しい啓蒙者の出現が全てなのであり、それが発見されさえすればよいのである。科学となつた社会主義は、この新しい理想を合法的な、内的な過程として導き出すものなのである。

京大ゼミナール講座開催

十二月三日の両日、京都大学社会学部と団体連絡協議会主催、第一回平和・軍縮ゼミナールが行われた。ゼミナールでは「新戦略と欧州戦域交渉」の連発の脅威は本当に「教科書改訂」とその狙い「改善策」と極東有事研究」の題目に分かれた学習・討論会が持たれた。既に一回目を迎えた通称ゼミでは、この半年間の情勢を整理し、今後の方向性について一つの課題毎に深めていった。ゼミ

十二月三日の両日、京都大学社会学部と団体連絡協議会主催、第一回平和・軍縮ゼミナールが行われた。ゼミナールでは「新戦略と欧州戦域交渉」の連発の脅威は本当に「教科書改訂」とその狙い「改善策」と極東有事研究」の題目に分かれた学習・討論会が持たれた。既に一回目を迎えた通称ゼミでは、この半年間の情勢を整理し、今後の方向性について一つの課題毎に深めていった。ゼミ

都平連

十二月三日の両日、京都大学社会学部と団体連絡協議会主催、第一回平和・軍縮ゼミナールが行われた。ゼミナールでは「新戦略と欧州戦域交渉」の連発の脅威は本当に「教科書改訂」とその狙い「改善策」と極東有事研究」の題目に分かれた学習・討論会が持たれた。既に一回目を迎えた通称ゼミでは、この半年間の情勢を整理し、今後の方向性について一つの課題毎に深めていった。ゼミ

十二月三日の両日、京都大学社会学部と団体連絡協議会主催、第一回平和・軍縮ゼミナールが行われた。ゼミナールでは「新戦略と欧州戦域交渉」の連発の脅威は本当に「教科書改訂」とその狙い「改善策」と極東有事研究」の題目に分かれた学習・討論会が持たれた。既に一回目を迎えた通称ゼミでは、この半年間の情勢を整理し、今後の方向性について一つの課題毎に深めていった。ゼミ

都唯研連

十二月三日の両日、京都大学社会学部と団体連絡協議会主催、第一回平和・軍縮ゼミナールが行われた。ゼミナールでは「新戦略と欧州戦域交渉」の連発の脅威は本当に「教科書改訂」とその狙い「改善策」と極東有事研究」の題目に分かれた学習・討論会が持たれた。既に一回目を迎えた通称ゼミでは、この半年間の情勢を整理し、今後の方向性について一つの課題毎に深めていった。ゼミ

十二月三日の両日、京都大学社会学部と団体連絡協議会主催、第一回平和・軍縮ゼミナールが行われた。ゼミナールでは「新戦略と欧州戦域交渉」の連発の脅威は本当に「教科書改訂」とその狙い「改善策」と極東有事研究」の題目に分かれた学習・討論会が持たれた。既に一回目を迎えた通称ゼミでは、この半年間の情勢を整理し、今後の方向性について一つの課題毎に深めていった。ゼミ

総評、準備会参加を決定

問われる闘いの統一

拡大評 議論なし、拍手で確認

二月七日、総評は統一準備会への参加を巡り、拡大評議員会を開き、全民間連産の段階的な準備会への参加を決定した。この会議には、執行部として「全民間連産の準備会参加」を前提に①一四日の統一準備会には鉄鋼労連、全労連の統一準備会に参加する。②他の各民間連産は可能な限り来年一月末までに準備会の手続きを完了する。③組織事項でなお討議を要する連産も来年三月末までに手続きを終えるよう努力するとしている。



労働運動の階級的再生が問われている！

これに対し「基本構想反対の立場を明確にせよ」とする統一労働組合の労組からの修正案の提出という臨時大会と同様の事態を生み出す中で強行に執行部提案を採択したのである。さらに、この採択は、修正案の否決と同時に執行部案を論議のないまま拍手による確認という一方的な形で決定したのである。このような事態自身、何ら解決を示すものでなく、総評自身に明確な方針を持たずに準備会へのなだれ込みを追認したにすぎない。ここには、いくらか総評が「戸開放」を要求したところで同盟の三原則(左右の全体主義反対、左派のなだれ込みは許さない。議院制民主主義制度堅持、政治スト反対。国際自由連連への加盟)を打ち破る力はない。

今日労働統一の動きが、いかなる政治状況の中で展開されているのか、そして反独占勢力にどうなる政治状況の下に統一戦線を築き、大衆運動を組織すべきなのかを表現するならば、それは、

①ソ連脅威論の承認下の日米安保

②改革推進が明記されている。

③新安全保障政策、[行財政]改革推進が明記されている。

④同党の決定したこの政策転換は、政府・独占の進める軍事大国化に、一層の拍車をかけるものである。

右よりへの転換

公明党大会 下部に不満

一月一日からの三日間、公明党第一九回大会が開催された。この大会は、同党にとって結党以来の明確な転換である。同大会で全会一致で採択された議案書並びに決議には、防衛・外交政策の転換を示す、新安全保障政策、[行財政]改革推進が明記されている。

同党の決定したこの政策転換は、政府・独占の進める軍事大国化に、一層の拍車をかけるものである。

露呈する政府独占の野望

政府・独占の軍国主義強化は、五月の日本首相会議以降、その速度を一層露骨に速められてきている。これは、五月の日本首相会議以降、その速度を一層露骨に速められてきている。これは、五月の日本首相会議以降、その速度を一層露骨に速められてきている。

露骨に速まる軍国主義化

- 1・20 自民党改憲問題国会想定問答集判明
- 4・9 米原潜、日昇丸をあて逃げ
- 4・22 大村防衛庁長官有事法制研究中間報告
- 5・8 日米合同演習、はえなわ切断
- 5・17 米ライシャワー日本への核持ち込み事実公表
- 7・26 失田統幕議長、日米共同の統合演習が目標と発言
- 10・10 防衛庁海上交通路(シーレーン)防衛の目標は限定海域の確保
- 10・11 浅倉北米局長国会答弁、安保条約による対米技術協力は、武器禁輸三原則に優先

ソ連の脅威論

その虚構と真実

八月九日「屈辱の日」

力な「根拠」の一つとなっているのである。

中立条約締結前後

ソ日中立条約とその前後

上

第二次大戦直前の一九四一年四月、モスクワで期限五年間のソ日中立条約が調印された。双方が負った義務は、平和関係を保持し、領土の保全と不可侵を相互に尊重することであった。この調印はいかなる意味を持っていたのか。当時の前後の状況をみてみる必要がある。

は、中国人民の一切の権利を奪い去り、略奪と殺りくの限りを尽すという犯罪性だけでなく、独伊両国のファシズムの膨張主義とともに、世界全体を世界戦争の危機に直面させていた。ソ連は、一九三七年八月、中国と不可侵条約を締結した。この条約は、日本の侵略と闘う中

は、中国人民の一切の権利を奪い去り、略奪と殺りくの限りを尽すという犯罪性だけでなく、独伊両国のファシズムの膨張主義とともに、世界全体を世界戦争の危機に直面させていた。ソ連は、一九三七年八月、中国と不可侵条約を締結した。この条約は、日本の侵略と闘う中

反独占勢力の任務は

具体的課題での共闘

現在反独占勢力に問われていることは、こうした支持者への働きかけを強め、福祉、原水禁、軍事費問題など具体的な課題に基づく広範な統一戦線を構築することである。そうした闘いの中でこそ、公明党総体としても、反独占勢力の隊列に復帰することが可能となるであろう。

民族差別と闘う

全国交流集会開かる

国籍取得の問題に焦点

「在日韓国人・朝鮮人教師の実現をめざして、いま在日韓国人・朝鮮人はどう生きるのか」をテーマに、一月二日から三日間にわたり、名古屋市内で第七回民族差別と闘う全国交流集会が開催された。

現在日本政府は、国籍条項を撤廃する一方で、教員採用時などで「帰化」を強要し、在日朝鮮人が背負ってきた被差別・差別の歴史を「精算」しようとしている。また在日朝鮮人は定住化傾向の中で国籍の分化が進んでいる。在日朝鮮人の反差別・生活権拡大、誇りをもちて生きるために、国籍の問題を含め「在日の将来の真剣な議論を要する時代を迎えている。それはとりもなおさず、日本の民族排外主義、差別社会の問題なのである。



民権の役割を明らかに